

奈弓連だより

通巻 223号

令和2年9月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 松澤和実 山本悦子

連絡先：henshu@narakyudo.jp

令和2年度奈良県中学生弓道大会

団体 男子: 檀原A

女子: 白檀A

個人 男子: 荒木 快選手(天理南)

女子: 細川 友里愛選手(檀原)が優勝

8月1日(土) 奈良県弓道連盟主催による標題の大会が各中学校弓道場において行われました。

競技方法

(1) 団体競技

予選

①1チーム36射(各自4射3回)し、男女とも上位4チームを予選通過とする。②同中の場合は、1チーム3射(各自1射)の競射を行う。

決勝

①下記の組合せでトーナメント戦を行い、順位を決定する。②同中の場合は、1チーム3射(各自1射)の競射を行う。③3位決定戦を行う。

(2) 個人競技

①各人12射(4射3回)し、その的中数で順位を決める。②同中の場合は、全て射詰にて順位を決する。

(遠近法は実施しない)

(3) その他

本大会は、(公財)全日本弓道連盟競技規則及び本実施要項に則って実施する。

表彰 団体競技男女各3位まで、個人競技男女共に各6位までを表彰する。

中学校の弓道の大会としては、はじめて各学校で弓を引きその結果を持ち寄って試合を行うという形式で、今年度はじめての公式戦を行いました。中学3年生にとっては最後の試合になりました。男子59名、女子90名の参加がありました。

試合の結果は次の通りです。

団体戦

男子

優勝 檀原A(岡、佐渡、岡田)

2位 白檀A(小谷、丸山、榊井)

3位 天南B(間部、今中、森永)

女子

優勝 白檀A(金原、山本、肌勢)

2位 檀原A(細川、宇野、湯浅)

3位 檀原D(坂本、半田、藪内)

個人戦

男子

優勝 荒木 快(天理南)

2位 岡 大晴(檀原)

3位 丸山 慶人(白檀)

4位 小谷 遥由(白檀)

5位 早川 達也(天理南)

6位 花野 希旺(香芝)

女子

細川 友里愛(檀原)

坂本 優奈(檀原)

古家 七楓(香芝)

熊川 陽菜乃(香芝)

河村 優(大成)

山本 留利佳(白檀)



各中学校の弓道場での試合の様子

(中体連 中前 芳一)

橿原公苑弓道場の耐震工事

－あつという間に－地震にも負けず

時は来ました！橿原公苑弓道場の地震からの防護工事が始まりました。この耐震補強工事の計画が我々に知らされてから一年があつという間に経ちました。最後の準備行動は8月30日の日曜日に行われました。奈良のすべての弓道場からの34名の射手は、西中会長と阪中理事長の歓迎と指導を受け、今回は弓矢ではなく手拭いと軍手で武装し、永い伝統を誇る公苑弓道場の備品を隣のバラックへ運ぶ作業に熱心に取り組んでいました。新型コロナウイルス感染防止対策弓道ガイドラインに従って、全員が感染防止チェックシートに登録し、今回は各参加者の体温を赤外線体温計で測定しました。その日、最高気温が37度以上の天気の中、皆さんの測定された体温は見事に36.9度以下でした。有難いことに、熱中症を防ぐために、セルフサービスのドリンクコーナーを設置して頂きました。誰もが勤勉に様々仕事に加わって、整理と撤収と移動の作業は迅速に進みました。僅か2時間後、私たちは完全に空の道場に身を置きました。多くの人のTシャツは汗で色が変わってしまう程でした。今は、強化・改修される公苑弓道場への期待は高いものとなるでしょう。照明は一新され、期待できる改善点のトップの一つは新しい洋式水洗トイレですが、実際最も焦点となる工事は、外部からは見えない壁の補強です。これは、強い地震が発生した場合に道場の建物が崩れるのを防ぐためです。安全性と安定性の向上に寄与する非常に満足のいく対策であり、その外見からは見えないという特徴は、正に射法八節の胴造りを連想させるものです。立派な行射は、最初から最後まで崩れない胴造りが肝要であり、振動に邪魔されるべきではない安定した土台から始まりませんか？今後の補強された公苑弓道場は沢山の立派な射を生み出す場になるでしょう。我々は令和3年3月に公苑弓道場が再開するのをとても楽しみにしており、これからも胴造りを一層錬磨しながら、辛抱強く待たなければならない次の6ヶ月が同じようにあつという間に過ぎ去ることを願っています。最後に、今回参加された皆様に厚く感謝しますと共に来年の3月の初めにすべての備品を元に戻したり、再設置したりする作業の為にも、多くの参加者が再び来て下さることを心からお願い申し上げます。（錬弓会 ザントマン・ダニエル）

奈良県の支部、団体紹介

橿原市弓道協会でのコロナ対応

橿原市弓道協会会長 阪中計夫

橿原市弓道協会は、2年前に統合10周年（創設からは62年）の記念事業を行ったところですが、歴史が古いのと中学校弓道や初心者教室等のおかげで、多くの会員を擁しています。これからさらに発展、そんな中でのコロナ禍です。自粛時からの動きを報告します。

■コロナ禍による制約

新型コロナウイルスの拡大防止のための行動の自粛、弓道場に行けないことは、おそらく多くの人にとって初めての経験だったと思います。その後再開されましたが、人と人の中には一定の距離を保ち、不要な接触を避ける事が求められました。また参加する人が集中しないように時間を分けたり、参加者数を絞ったり、これまで多くの愛好家を増やす事が「善」と思ってきたことが否定される時代になっています。

■座学へのチャンス

道場に行けない間に、巻き藁を購入したり作成したりした人もおられると聞きます。でも多くの方はそれもできず、せいぜいゴム弓での稽古にとどまったのではないのでしょうか。

4月・5月の二か月間、会員の皆さんに何ができるかを考え、私が以前からまとめていた弓道に関する資料を提供することを考えました。「弓を引かれへんかったら、勉強しよう！」という事です。

大学生を教えるようになってから、パワーポイントでの講義を通じていくつかの資料をつくっていました。弓を引けないのなら、知識を増やす良い機会と捉え、順次その資料を皆さんに提供していきました。

知識レベルが向上したかどうかは、本市協会の会員の皆さんをみていただければわかると思います。

■非接触型の指導法・勉強法

コロナ禍のなかで、できるだけ接触を控え、口頭による指導や見て覚えることを会員の方々には伝えました。弓引きは教えすぎだと、よく言われます。本来は、人の射を良く見て良いところを盗んで、自分のものにしていく事に努力すべき機会を、奪い過ぎていたのかもしれない。

あらためて見取り稽古の重要性を認識し、また口頭

による指導のなかで、その意味を理解し自分で修正する力をつける機会にすべく運営しましたが、結果につながるには難しさを感じています。

この他、非接触型の中でできることとして、ビデオ撮影による稽古があります。当協会の研修の中で、まもなく予定していますが、ビデオ撮影をして、映像を見ることによって課題の共有をし、技術改善につなげる時間を持つ予定です。

弓道修練においてもニューノーマルが求められる中、「引いて教えてもらう」だけが弓の稽古ではないことを改めて知らされたコロナでした。

量る、測る、計る？



着物のサイズはありますか？

女性の衿（ゆき）や袖丈はあまり短いと襷掛けがし難いことがあります。皆さんはいかがですか？男性も肌脱ぎや肌入れがし難いことがあるようです。自分の「衿」「袖丈」の長さを知っていると既製品を買う時、着物を誂える時、いただく時にすぐに対応できますね。また、今持っている着物のサイズも測ってみましょう。父・母からのお下がりや頂いた着物は、着るのに支障はないものの、少しサイズが違って襦袢の袖が飛び出たりして恰好の悪い物です。さらに襷掛けや肌脱ぎ肌入れのときにひっかかりを感じます。ぴったりと合った着物と襦袢は、気持ち良く、所作にも支障がないように感じ驚いたことがあります。身幅も小さいとはだけてしまうので、気をつけたいところです。もし直せるのなら、お直しの方がよいですが、この着物にはこの襦袢、というように誤差の少ないペアを作っておくのも良いですね。まずは自分のサイズ、着物のサイズ、その組み合わせを知っておきましょう。

着物のサイズ

- | | |
|----------------------------|----|
| ・ 衿
(着物の衿の中心から袖口まで) | cm |
| ・ 袖丈
(袖の上下の長さ) | cm |
| ・ 身幅
(前巾+後巾+後巾+15 cmほど) | cm |

歳時記

「十月」 神無月

現在、都会では土地などの問題から住まいが簡素化され、合理化されてきていますので、臨機応変に使用できるゆとりある住居などは、地方にしか見られなくなりしました。それと同時に、仏壇とか神棚なども忘れられるようになりました。けれども結婚式は神前で行なう人が90%、また初詣には若い人が多いことを見ると、まだ何か心に潜在するものがあると思われれます。十月は神無月ですが、出雲地方では神有月です。神棚のしめ縄は天の岩戸の故事から発し、清浄を表示するものです。新しいなわを左なえになって、紙垂（しで）という紙をたらしたものはさみます。その形から大根じめ、ごぼうじめなどといわれていますが、稲の根本を向かって右にします。紙垂は二たれ、三たれ、四たれ、七たれなどありますが、一般の神棚としての定めはありません。神饌用具として、瓶子（へいし）〔酒を入れる器〕は一対が正式です。杯をはじめすべて土器が正式の器です。神饌を盛る器をかわらけ（土器）、あるいはひらかといいますが、三方にのせて供えます。三方は胴の三方にくり型をあけているところからその名があります。主として神饌をのせるお膳に用いられますが、胴の上に置く折敷のとじめが神前に向かないよう、手前にすえます。くり型をあけていない方はとじめがありません。胴は反対側にとじめがあります。折敷は三方の胴を取った形のもので、食膳用にもちいます。高つきは腰高ともいい、食物を置く腰の高い台です。雛祭りときには菱餅などをのせます。その他燭台、花瓶などを置きます。玉串はたむけ串のことで、神域の漂木でした。榊を用いて紙垂（しで）をつけます。お札は毎年いただきます。古いお札は神社の所定の場所にお返りするか、家で焼却するようにします。そして常に新しいお札をお祭りしたいものです。

「小笠原流マナー」著者小笠原清信グラフ社発行より
中埜狛大学藤原孝澄(中埜広樹)

(2008年9月号に掲載された記事より)

編 | 集 | 後 | 記

秋になり、とんぼをよく見かけますね。とんぼは勝虫とも呼ばれその由来は皆様ご存知の通りです。神武天皇、雄略天皇との逸話など秋の夜長にググってみてはいかがでしょう。(編集担当 山本悦子)